

令和8年度 目黒区立田道小学校 学校グランドデザイン

Research：各種調査等による実態

【学校の実態】 ・児童数368名(R8.4 現在) ・学級数14学級 ・教員数22名 (男6、女16) 校長(1) 副校長(1) 主幹教諭(2) 主任教諭(12) 教諭(6)	【児童の実態】 <四者評価の結果> 「授業が分かる」の回答が約 93%であり、40分授業午前5時間制導入以降、90%以上を維持している。 <区学力調査> 基礎的・基本的な学力が身に付いている児童と未定着な児童との二極化が見られる。	【保護者・地域の実態】 <四者評価の結果> ・保護者、地域とも学校への満足度は85%を超える。 <保護者> ・教育への関心が高く、学校へも協力的である。 <地域> ・学校を会場とした地域行事が多い。 ・卒業生が多く在住し、学校への愛着が深い。
---	--	---

校長の経営方針

【基本方針】
○**学力の向上**
自ら学ぶ姿勢・自力解決・学び合いにより、自己の学びを高めようとする児童の育成
○**豊かな心**
自他の違いを認め、相手を思いやり、協力し合う児童の育成
○**健やかな体**
自分の心と体についての知識をもち、心身共に健康な児童の育成

上記目標の達成に向けて教職員が一丸となって、組織的かつ計画的に教育活動を展開し、以下の四者にとっての理想を現実のものとしていく。
☆児童…集団の中で健やかに成長する。
☆保護者…大切に育ててきた我が子の望ましい変容・成長を実感する。
☆地域…教育活動に理解を示し、協力的に取り組む。
☆教員…自らが元気で、やる気をもって取り組み、児童の成長に手ごたえを感じる。

目指す子ども像

◎よく考えて 進んで 行う子
・自ら学ぶ姿勢をもち、自力解決や学び合いにより、自己の学びを高めようとする子

○心ゆたかで 思いやりのある子
・自他の違いを認め、相手を思いやり、協力し合う子

○健康で 最後までやり抜く子
・自分の子と体についての知識をもち、心身ともに健康な子

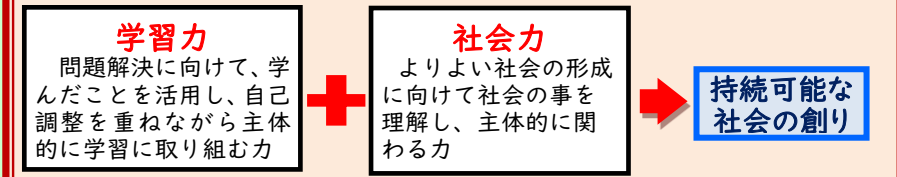
持続可能な社会の創り手となる児童
学習力・社会力のある子

40分授業午前5時間制を生かすP D C A

『持続可能な社会の創り手となる児童の育成 ～個別最適な学びと協働的な学びの実現～』

田道小学校が目指す持続可能な社会の創り手となる児童

- ①よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする児童
- ②持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識が涵養された児童



各学年の時数内訳

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
標準授業時数	865	925	980	1015	1015	1015
学校裁量	114.5	102	103	102	94.75	90.5
行事時数	41.25	39.25	35.75	50.25	60.75	67.5
総時数	1020.75	1066.25	1118.75	1167.25	1170.5	1173

時刻	13:15	13:30	13:50	14:10	14:30	15:25
活動	清掃	DDT	6校時(3~6年)	6校時(3~6年)	放課後個別指導	
移動	移動	移動	移動	移動	移動	移動
休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
放課後	放課後	放課後	放課後	放課後	放課後	放課後

生み出された時間における個別化された学習カリキュラム

Iホップタイム II放課後個別指導

学習力の向上

一斉学習の内容に対する定着度を個別に確認し、学習上の課題に応じて、テーマやプロセスを自己選択する学び。

学習活動	教師	児童
指導の個別化	指導の個別化	学習の個別化
Iホップタイム	Iホップタイム	Iホップタイム
II放課後個別指導	II放課後個別指導	II放課後個別指導
自己選択学習typeA	自己選択学習typeA	自己選択学習typeA
自己選択学習typeB	自己選択学習typeB	自己選択学習typeB
自己選択学習typeC	自己選択学習typeC	自己選択学習typeC
自己選択学習typeD	自己選択学習typeD	自己選択学習typeD

III教科内探究基礎を通して培う学習力の向上

個別最適な学び

協働的な学び

問題解決型の学習

一斉学習においても、児童が自ら問いをもち、学習計画を立て、課題解決をする学習スタイルを構築する。

単元内自由進度学習

児童が単元のねらいに応じて学習時間、学習順序等の学習計画を自由に立てる学習スタイル。

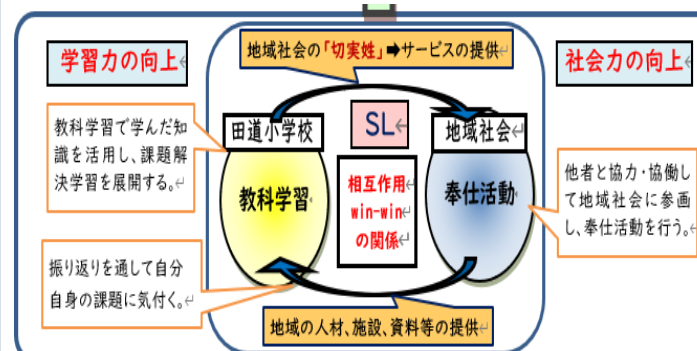
Dendo 学ぶ10の姿(学習行動)

・児童の主体的に取り組む学習の姿を整理し、単元のデザインや授業デザインに組み込む。
⇒Dendo 学ぶ10の姿と関連付けながら主体的に学習に取り組む態度についての意識的な側面をとらえて評価に繋ぐ。

IVサービス・ラーニング型 総合的な学習の時間社会力の向上

サービス・ラーニング

教科内容の習得と、学習過程において培う問題解決能力や意思決定等の学習能力を、サービス活動を中心に捉え、教科内容の基礎・基本との関連を図りながら伸長する統合カリキュラム・教育方法論。



V田Qタイム(探究) 学習力の向上(毎週1時間)

田Qタイム

児童が主体的に講座の内容を選択し、同じことに興味がある仲間と関わる中で、問いの作り方や情報収集の仕方を考え、探究する過程を知る。

自己の興味・関心を基に、テーマを決める。(20時間の学習)

個別最適な学び

協働的な学び

低学年田Qゼミ(1~3年生)
高学年田Qゼミ(4~6年生)

教科・領域内で習得した力を活用して、学習計画を立て、テーマに沿って自立的に学習する。

ファミリーグループワーク

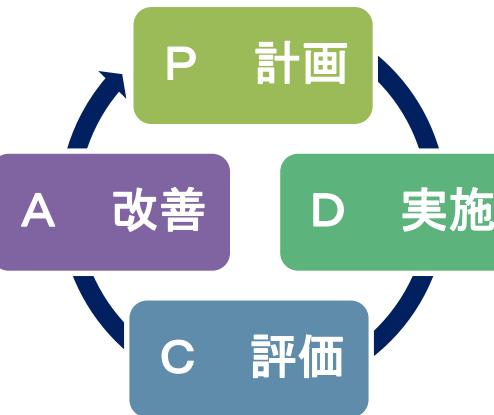
年間を通した、縦割り班での探究学習の交流の場を継続する。
①対話によるテーマ設定
②中間交流
③田Qタイム発表会

児童が主体性を発揮しながら学ぶ工夫

- ①個に応じた学習過程の構築
- ②個に応じた学習過程を支える学習環境

児童が協働性を発揮しながら学ぶ工夫

- ①学習形態の工夫(ペア学習・異学年交流)
- ②対話形態の工夫(サークル対話)



- ・授業改善
- ・週時程の改訂

対象	評価指標	目標値
児童	区学習状況調査(学力)	区の平均値以上
児童	学校評価アンケート	「学校の勉強が分かる」肯定的回答平均値 90%以上
教員	学校評価アンケート	「主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行っている」肯定的回答平均値 95%以上
保護者	学校評価アンケート	「学力向上のために工夫した授業を行っている」肯定的回答平均値 80%以上